

◎「語検」に高い評価＝第2回検定実施に向け、評議員会を開催

日本語検定（通称・「語検」）の第2回評議員会が10月1日、東京・文京区の椿山荘で開催されました。会議では、第2回検定に向けての取り組みの現状報告や意見交換などが行われました。

この日の評議員会は、10月26（金）、27日（土）に予定されている第2回検定を前に、その問題作成の方向性や現状の進行状況の報告などを行うために開催されました。梶田叡一さん（兵庫教育大学学長）をはじめ、7名の評議員が出席しました。



河内検定委員会委員長が、「6月の第1回検定には約2万人の受検者があり、滑り出しは上々と判断している。問題内容も高い評価を得ており、新聞やテレビなど各種のメディアで取り上げられている」などとあいさつ。また、2－6級の各級の最高得点者を表彰する「日本語検定委員会賞」と、各級の合格者のうちの年長・年少の成績優秀者を表彰する「時事通信社特別賞」を創設し、第1回については、それぞれ38人、14人に贈られたことが報告されました。

続いて、事務局から第1回検定の問題点の報告、第2回検定の問題作成の方向性と現状の進行状況についての説明があり、各評議員や事務局の間で、出題内容について良問作成に向けて、さまざまな視点から活発な意見交換が行われました。

一方、第2回検定の申込み状況について、検定事務局が現状を報告しました。一般会場は第1回検定より3会場多い全国111会場、団体受検の準会場は55会場多い310会場となり、最終的な受検者数は、第1回検定を数千人上回る見通しです。